

平成29年9月

小松宏彰 学位論文審査要旨

主 査 藤 原 義 之
副主査 梅 北 善 久
同 原 田 省

主論文

Serum vascular endothelial growth factor-A as a prognostic biomarker for epithelial ovarian cancer

(上皮性卵巣癌に対する予後バイオマーカーとしての血清血管内皮増殖因子A)

(著者：小松宏彰、大石徹郎、板持広明、島田宗昭、佐藤慎也、千酌潤、佐藤誠也、野中道子、澤田真由美、若原誠、梅北善久、原田省)

平成29年 International Journal of Gynecological Cancer

DOI:10.1097/IGC.0000000000001027

参考論文

1. Establishment and mutation analysis of a novel malignant peritoneal mesothelioma cell line, TU-MM-1, using whole genome sequencing

(全ゲノム配列決定法を用いた新規悪性腹膜中皮腫細胞株TU-MM-1の樹立と変異解析)

(著者：近江奈央、板持広明、小松宏彰、大石徹郎、島田宗昭、佐藤慎也、千酌潤、佐藤誠也、野中道子、工藤明子、原田省)

平成28年 Human Cell 29巻 46頁～51頁

2. Human papillomavirus type-specific persistence and reappearance after successful conization in patients with cervical intraepithelial neoplasia

(円錐切除術成功後の子宮頸部上皮内新生物患者におけるヒトパピローマウイルス型特異的持続感染および再発)

(著者：工藤明子、佐藤慎也、板持広明、小松宏彰、野中道子、佐藤誠也、千酌潤、島田宗昭、大石徹郎、紀川純三、原田省)

平成28年 International Journal of Clinical Oncology 21巻 580頁～587頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は卵巣癌患者血清を用いて、血清中の血管新生因子（VEGF-A、VEGF-C、VEGFR-1、VEGFR-2）の濃度をELISA法により測定し、臨床病理学的因子や予後との関連を検討したものである。その結果、VEGF-A高濃度群とVEGFR-2低濃度群は有意に予後不良であることが示され、多変量解析の結果、進行期に加えて血清VEGF-A濃度が独立予後因子となることが判明した。

本研究は新知見に富むものであり、その成果は婦人科腫瘍研究に貢献するとともに、明らかに学術水準を高めたものと認める。